

「余震が怖い…」

急げ！子供の心のケア

鳥取西部地震

鳥取西部地震の被災地では十日、多くの学校が授業

を再開した。避難生活が続く中、子供たちが四日ぶりに登校したが、同県教委によると、授業を再開した同県西部の公立小・中・高校など八十一校で計百九十二人が欠席した。

連休明け 24校で休校続く

欠席の理由は「JRの不運などで通学困難」「親せき宅などに避難」などが大半を占めたが、「余震におびえる」など精神的不安と思われる欠席者も十一人いた。

県教委は学校を通じて、カウンセラーの相談窓口などを紹介する。授業を再開した米子市榎原の市立尚徳小学校（竹本弘校長、三百一人）では、余震を警戒して児童らは保護者らに付き添われて集団登校。避難所になっている体育館からは、三年二組の安田恵美ちゃん（九歳）三人が登校した。担任の梅原美子教諭（こ）は「今日の授業は子供たちの心のケアが中心です」と話していた。しかし、震源に近い日

野、溝口など三町では小中の全校が再開できず、休校は県西部で計十八校。島根県内の五校と岡山県内一校も休校のままで、地震の影響が残っている。



集団登校する米子市立尚徳小の児童たち。ランドセルを教室に置いたまま避難していたため、ほとんどの手ぶらで学校に向かった。10日午前8時、鳥取県米子市

産経新聞

12.10.11

「力を合わせていこう」

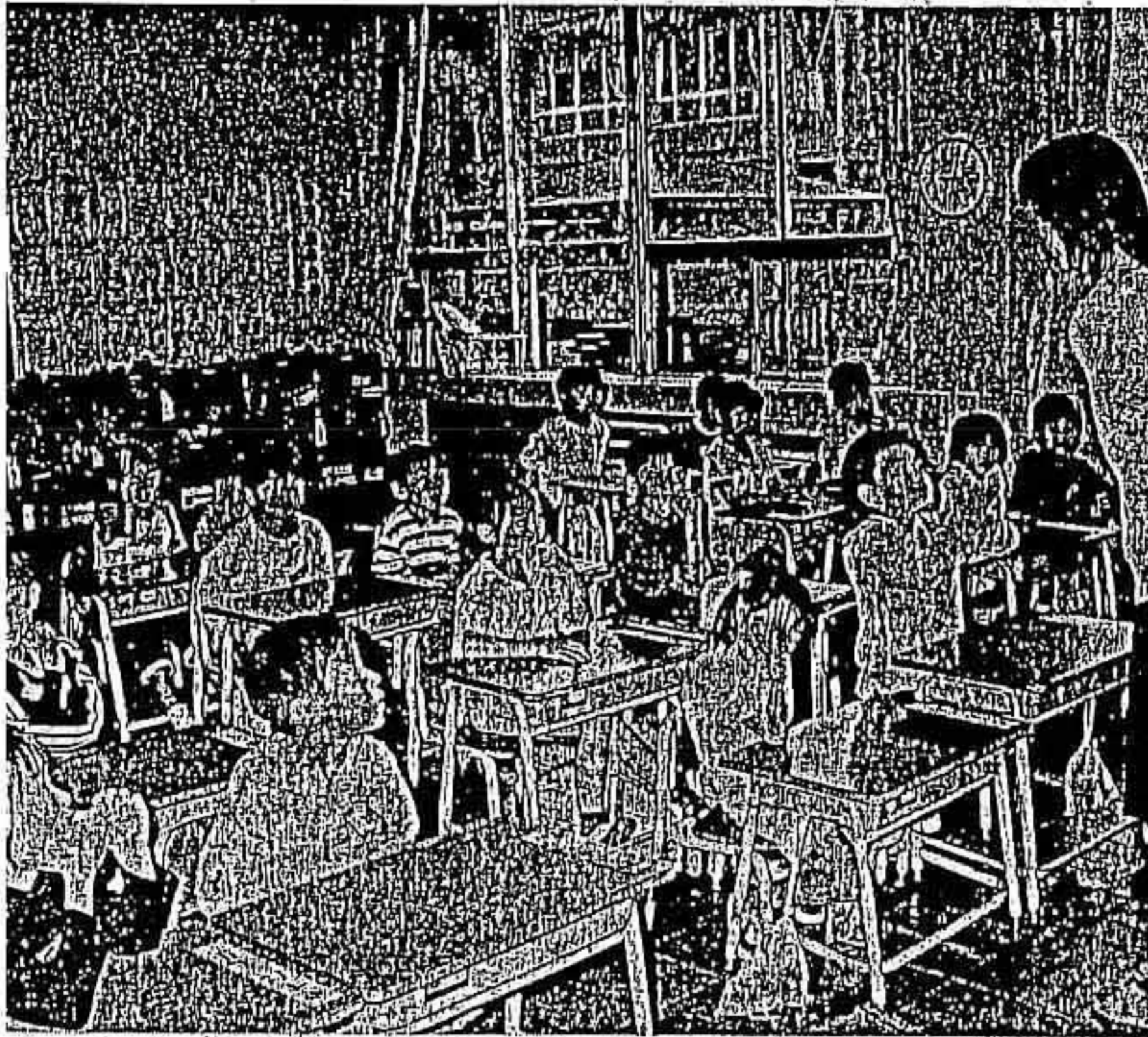
校舎に笑顔戻る

被災の学校、相次ぎ再開へ

みんなに会えてうれしい。連休明けの十日朝、鳥取県西部地震の被災地では多くの学校で授業が再開され、子供たちの明るい声と笑顔が校舎に戻った。校舎の一部が使えなくなった会見町直前の会見小学校は十一日から、被害が大きかった日野郡内の小中高校十一校は十二日から十六日にかけて授業を再開する。

鳥取県西部地震

西伯町馬場の法勝寺中一十日に授業を再開した。ぶりに友達と再会した。学(石田由朗校長)では、豊校した生徒たちが四日一昨日まで近くの公民館



授業が再開された鳥取県境港市の余子小学校

に家族と避難していたという山本善彦君(七)は「余震が続き、怖くて寝不足気味。たけどみんなの顔を見てほっとした」。自宅の車庫に家族五人で

避難し、車内で寝たという藤田剛菜(七)さんは「余震が恐くて眠れなかった。学校で友達に会うのが楽しかった」と話していた。

全校朝礼では、石田校長が「この災害を通じて近所や地域、友達の大切

さや、一人では生きていけないことが分かったと思う。これからもいろんな体験をするだろうが、頑張っていこう」と激励した。

境港市では七小学校のうち、外江小学校を除く六小が校舎を再開。同市竹内町の余子小学校(近藤孝昭校長、二百九十五人)では、臨時の全校集会が開かれ、近藤校長が「みんなが元気な顔を見せてくれてよかった。今回の経験を生かして、これからまた楽しい生活ができるよう力を合わせていこう」と児童に呼びかけた。

このあと、児童たちは各教室に分かれ、担任の教諭から命の大切さや具体的な安全対策などについて話を聞いた。

一方、二棟ある校舎のうち旧校舎が使用できなくなった会見小学校(原光太郎校長、児童数二百十人)では、十一日から新校舎で授業を再開することを決めた。

同小では新校舎への引っ越し作業が十日に完了。しかし、水道から濁り水が出、給食が再開できないことから、十一、十二日の授業は午前中で

終え、十二日は授業後にパンと牛乳の簡易給食を実施するという。また、損壊が大きかった日野町内の小中学校四校では依然復旧作業が続いており、児童生徒の家庭も損壊していることから、授業再開は十六日となる見通し。

県教委のまとめによると十日、県西部地区の公立学校で、地震を理由に欠席した児童、生徒は百九十二人。内訳は一時避難三十九人、自宅修理の手伝いなど三十八人、精神的な不安とみられるもの十二人など。

新日本海新聞
12.10.11

○復興に向けて

級友と笑顔の登校

被災地で授業再開 鳥取県西部地震

読売新聞

不安 悩み 学校で聞き取り

鳥取県西部地震の被災地の同県米子市など十三市町村では十日、休校になっていた小、中、高校など三十三校のうち八十五校で授業が再開。四日までに校内に笑顔と歓声が戻った。しかし、まだ避難所から離れられない子供たちもいて「心のケア」が課題を抱え、学校側は不安や悩みの聞き取り調査を実施。子供たちの苦しみを支援する。JRC伯耆編も復旧するなど、被災地は少しずつだが、地震前の表情を取り戻し始めた。



教職員が見守る中、元気に登校する境小の児童（十日午前7時55分、鳥取県境港市で）＝藤岡博之撮影

県教育委員会によると、依然として休校しているのは計十八校。境港市、溝口町などの七校が十一日、江府町の五校が十二日、日野町の四校が十六日に再開する予定だが、残る二校は校舎の損壊や通学路の安全が確保されるまで再開できない。見守った。避難所から通った児童や余震におどる子供もおり、担任教師を見つけて「おどって眠れなかった」「家は大丈夫だったか」と話しながら校門をくぐった。十数人が町外の親せき方へ身を寄せるなどし、全校生徒二百五十四人の九割以上が登校。体育館で全校集会を開いた後、学級ごとにホームルーム。地震に関連してショックを受けたこ

や、家庭の状況などを尋ねるアンケートが配られた。回復結果は、教師らが感じたと併せて、生徒たちの心の状態を把握するのに役立つ。学校の再開に合わせて、県教育委員会の日、鳥取大医学部付属病院や山陰労災病院など米子市内の四医療施設に「児童生徒の健康相談窓口」を設置。精神科医や臨床心理士が、電話や訪問相談の受け付けを始めた。



5日ぶりに再会したクラスメートと一緒に給食を楽しむ児童。教室に元気な笑顔が戻った＝鳥取県溝口町溝口、溝口小学校

読売新聞

12.10.11

○復興に向けて

元気な顔 続々登校 **学校**

被災 乗り越え再開 **役場**

復興へ力



地震発生以来4日ぶりに登校する子どもたち。後方の民家には雨よけの青いシートがかけられていた=10日午前7時40分、鳥取県西伯町で

鳥取県西部地震

米子空港けさ再開 伯備線も全面復旧

兵庫県などが支援職員派遣
兵庫県と神戸市、同市社会福祉協議会の職員計十二人が十一日から、鳥取県西部地震の被害が大きかった

同県日野町や米子市に入り、災害対策本部などで活動する。阪神大震災の経験を生かし、被災証明の発行手続きやがれきの処理、ボランティアの調整などのノウハウを指導する。

鳥取県西部地震の被災地では連休明けの十日、地震後に休校となっていた小、中、高校の多くが再開し、子供たちが教室に元気な顔を見せた。役場が激しく損壊した同県西伯町では臨時役場を開いて窓口業務を再開、日野町では仮設住宅建設のための作業に入った。ストップしていたJR伯備線と米子空港も運転再開へ向けて急ピッチで作業を進め、復興への歩みが着々と始まった。

地震後、一時は千二百人の避難者が出た鳥取県西伯町では十日、小中学生が地震後初めて登校した。おまへの家、大丈夫だったかと尋ね合っていた。給食後、下校した。十一日からは通常の授業が始まる見込みだ。

西伯小の三年生、山本恵さん(八)は、家族と一緒に近くの避難所で暮らす。午前七時前に一度自宅に戻り、通学かばんを持ってバスで登校。「家はぐちゃぐちゃで、避難所にいる方がいい。みんなに会えるのが楽しみ」と元気だった。

全校朝会で単信協議校長(中心)は「地震で大変だけれど、喜んでいいことがありませぬ。みなさんの中にけが人がなかったことです。明日からも元気な顔を楽しみにしています」と話した。

鳥取県教委のまとめによると、県内の小・中・高校のうち、日野、江府、溝口などの一市五町で計十八校が十日も休校した。庁舎の半数の柱にひびが入るなどして立ち入り危険な状態となった西伯町役場。十日、隣の公民館を仮庁舎として住民票発行や、震災証明書の受け付けの窓口業務を始めた。

同県米子市の皆尾温泉では、避難所で暮らす住民を対象に浴場の無料開放を始めた。旅館「松月」では八日夜から、市や近くの町の避難所の約六百人のお年寄りらが久しぶりの入浴を楽しんだ。同温泉旅館組合(二十旅館)の半数も十日から同じサービスを実施した。

七百棟余りの家屋が損壊した日野町の鳥坂小学校のグラウンドでは九日から、プレハブの仮設住宅六棟(十二戸分)の設置場所を決める作業が始まった。

鳥取県教委のまとめによると、県内の小・中・高校のうち、日野、江府、溝口などの一市五町で計十八校が十日も休校した。

庁舎の半数の柱にひびが入るなどして立ち入り危険な状態となった西伯町役場。十日、隣の公民館を仮庁舎として住民票発行や、震災証明書の受け付けの窓口業務を始めた。

同県米子市の皆尾温泉では、避難所で暮らす住民を対象に浴場の無料開放を始めた。旅館「松月」では八日夜から、市や近くの町の避難所の約六百人のお年寄りらが久しぶりの入浴を楽しんだ。同温泉旅館組合(二十旅館)の半数も十日から同じサービスを実施した。

朝日新聞
12.10.11

過疎地の山間部支えた 地域のきずな

「助け合い」胸に復興へ

県西部地震から1週間

3000人近い被災者が避難所で眠れぬ夜を過ごした県西部地震から、12日で1週間目を迎えた。被害の中心は過疎の山間部で、お年寄りの立ち直りが心配されたが、地域のきずなや、ボランティアの善意が支えた。交通網はほぼ復旧したが、住宅の再建などはこれから。人々は「助け合い」の大切さを胸に刻み、復興に向かい合う。



避難生活を続ける人にも疲労の色が...
—日野町黒坂の同町老人福祉センターで12日午後

目立つボランティアの活躍

余震の中、復旧作業

◆6日午後1時半
日野町黒坂の京木晋子さん(70)が大きな揺れを感じたのは昼食の後片付けに台所に入った時だった。冷蔵庫から魚や肉が飛び出す。食器棚の茶わんが落ちる「ザツ」という音がした。柱にしがみ付いた後、家の外に飛び出した。「何を履いて出たかって、もう無我夢中で覚えて

◆8日午後2時
日野町や西伯町では、全国から駆けつけたボランティアらが、壊れた壁

根に登り防水シートを張っている。余震が作業を阻む。そして、先月の東海豪雨の被災地にも応援に入った奈良市の消防

士 橋本裕一さん(26)は空を仰いだ。「天は週末」とに雨を降らしやる」

被災児童励ます先生

◆9日午前
会員町立会見小学校の4年1組の教室の床には、あ

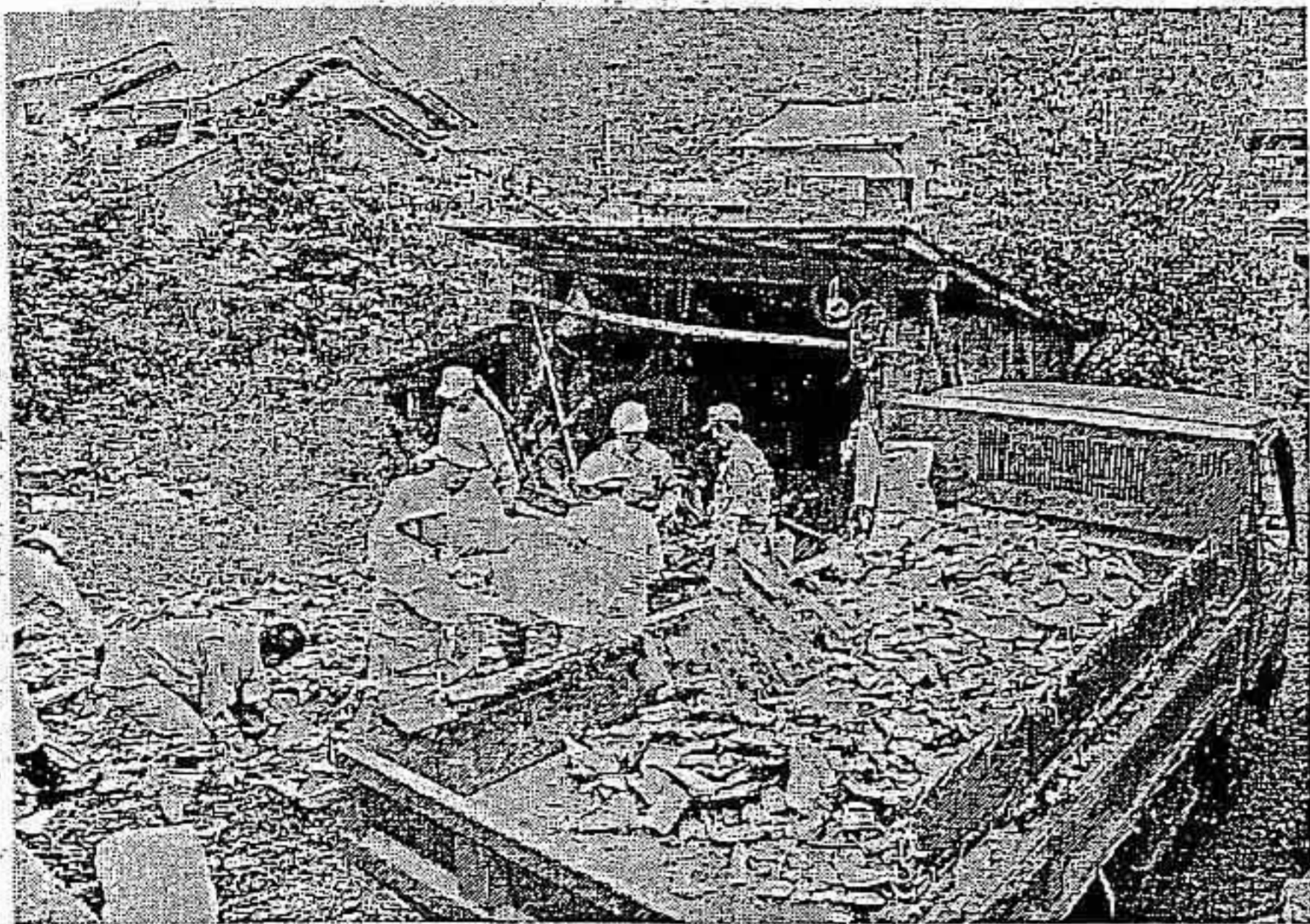
の日から2個のランドセルが散らばったままだった。

教室のある棟は建て直された。担任の持井曉美先生(24)は別の棟にランドセルを運んだ。壁の絵を前と同じ場所に張っていると、不安げだった子供たちの顔が

「心配しないで戻って来て。教室は前と同じにしたよ」

◆10日午後3時
西伯町の田辺真さん(70)が、役場前の町ボランティアセンターのテントを防げる。地震では、家のフロッグ扉が約50センチにわたり、稲刈り前の田んぼに倒れ落ちた。2日がかりで撤去してくれたのは、ボランティアたちだった。「若い人に発見された。今度は私が皆さんにお返し

◆11日午前9時
会見小学校で授業が再開され、4年1組の新しい教室にも元気な声があふく。ロッカーには、ランドセルがきれいに並んでいた。持井先生が話したのはあの時、男子の一人が家の壁たきりのおばあちゃんを驚かせていたこと。そして、みんなが「大丈夫」と励ましたこと。



大きな被害を受けた日野町下楯では、地震で壊れたかわらをトラックに積み込む作業が進められていた—12日午後

「先生の力だけじゃどうにもなりません。みんなの力が必要なの」

被災地に大きな励まし

高野球部初の秋季中国大会へ 根雨 地元も熱いエール

「被災した人たち、元気を出して」。倉吉市で開かれた秋季鳥取県高校野球大会に出場した日野町の根雨高校は十一日、境港市の境港工業高校との三位決定戦に勝ち、初の秋季中国大会出場を決めた。鳥取県西部地震で被害を受けた地域同士の対戦となったが、両校ナインとも震災にめげず全力でプレーし、復旧活動の合間を縫って駆けつけた地元応援団を喜ばせた。

根雨高ナインは六日、全員の家族の無事を確認。選手もこれにこたえ、準決勝ゲームに勝利した。開賽ゲームに勝利した。大会中、頭本元文部長は「地元で明るい話題の被害状況を知った。その日の夕方うちに選手たちには言葉をかけた。好投などで見事勝利。応援団も試合が終盤に近づくにつれて、メガホン片手に「よっしゃ、あと少しだ」「しっかり守れよ」と熱い声援を送った。



中国大会出場を喜ぶ根雨高ナイン

試合が終了し、念願の中国大会出場が決まると、大森教団監督と選手らは目に涙を浮かべ、被災地からかけつけた応援団とともに喜びを味わった。大森監督は「地元のことを心配だったと思うが、選手たちはよく頑張りました」と選手たちをたたえた。

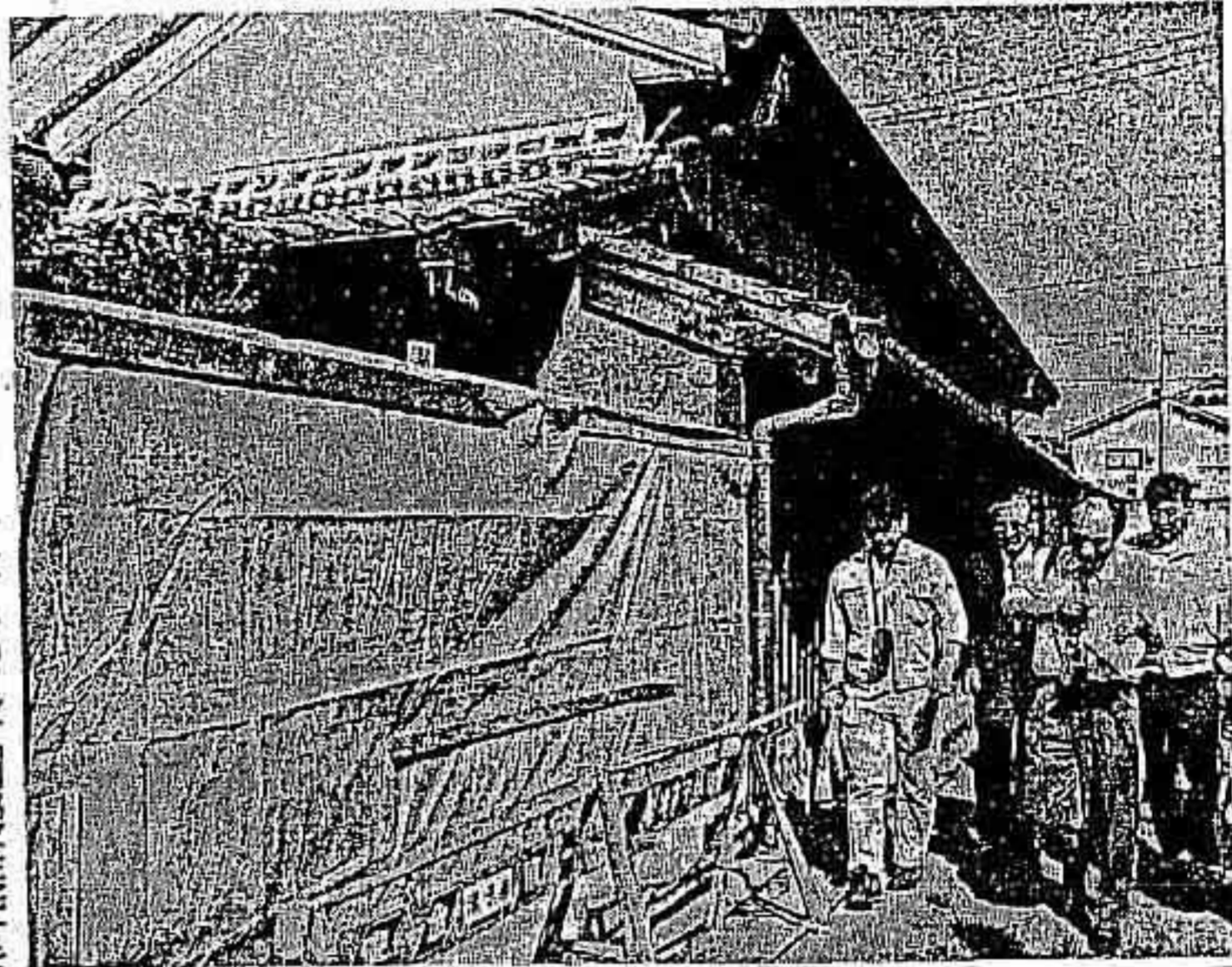
翌十二日、大森監督と二年生部員は地震の被害が大きかったエースの石田圭太君と頭本部長の家を訪れ、部屋の片付けを手伝った。石田君は十一日夜から避難所生活となったが、落ちこんだ様子はなく、前向きに振舞っていた。日野町の生田

秀正町長は「震源地の高野町の子供たちが地震の心配をほねのけ、よく頑張ってくれた。中国大会で

○文化財被害関係

被災の文化財、文化庁が現地調査

米子の後藤家住宅と大山の門脇家住宅



後藤家住宅の被害状況を調べる調査官ら

鳥取西部地震で被害を受けた国の重要文化財、米子「後藤家住宅」と大山町所

子の旧家「門脇家住宅」を十三日、文化庁の調査官らが現地調査した。宝暦三年（一七五三年）建築の後藤家住宅は県内の文化財の中で最も被害が大きく、母屋の壁には多くの亀裂が入り、隣接する土蔵も北側の壁の半分近くが崩壊していた。調査官は、崩れた壁や傾んだ室内の様子などを図面に書き込みながら詳しく調べた。

清水真一調査官（右）は「土蔵は予想以上の被害だった。数年がかりの本格的な修復が必要ではないかと深刻な表情を浮かべた。所有者の後藤朗知さん（左）は「大切な文化財なので、時間をかけて修復してもらいたい」と話していた。江戸時代の明和六年（一七六九年）に建てられた「門脇家住宅」でも調査が行われ、茶室の壁に亀裂などがみられたが、大きな被害は確認されなかった。人命救助の沖さんら米子署が感謝状贈呈

米子署は十三日、人命救助で米子市天神町、看護士、沖憲太郎さん（左）と市役見町、団体職員、末吉幹雄さん（右）の二人に感謝状を贈った。二人は鳥取西部地震が発生した直後の六日午後一時半すぎ、同市天神町一ノ路上で、倒壊したブロック塀の下敷きになっている同市内の建築業の男性（左）を見つけて救助し、近くの病院まで運んだ。男性は骨盤を折るなどの重傷を負って入院中。被災者に安らぎをきよう米子で美術展 県美術展米子展が十四日から二十一日まで米子市美術館で開かれる。当初は八日から予定していたが、鳥取西部地震で延期。被災者の心のやすらぎにと開催を決めた。

産経新聞 12.10.14

○その他

被災の高校生 授業料を免除
 県と県教委は十一日、地震で被災した高校生の授業料を状況に応じて免除することを決めた。被災して授業料の支払いが難しいと認められた生徒（世帯所得が一定基準以上

や日本育英会などで奨学金を受けるなどしている場合は除く）が対象。家庭が全壊、半壊した場合は県立高校（月額九千円）、私立高校（同一万七千円）は共に全額免除になる。全半壊以外は、それぞれ半額になる。必要な書類は減免申請書、罹災証明書、所得課税証明書。申し込みと問い合わせは、生徒が通学する各高校へ。

朝日新聞
 12.10.13